

本町の中学校部活動の実情について

【少子化による生徒数の減少で、活動格差など継続困難となる状況の発生】

- ・部活動数の少なさ ⇒ 生徒にとって、活動の選択肢が制限される
- ・学校単位のチーム編成に影響 ⇒ 合同部活動で実施している種目がある
- ・4中学校の異なる生徒数規模 ⇒ 中学校ごとに部活動数の相違が発生
- ・顧問教員の競技経験の有無、学校ごとに異なる部活動指導員の配置数 ⇒ 指導内容の相違



【子どもたちの持続可能な活動環境・場を整備していく必要がある】

- 【目指すべき姿】 町内の中学校生徒にとって、平等な活動機会を確保すること  
多様なスポーツ・文化活動に触れ合える機会を確保すること
- ↓ そのために…
- ・まずは「休日の部活動」から、段階的な地域移行を進めます。
  - ・子どもたちの目線に立ちつつ、越前町としての最適なカタチを模索します。

本町の地域移行の考え方

| 検討事項      | 認識・内容・方法  | 理由   |
|-----------|---|--|
| ①運営主体     | えちぜんスポーツクラブに置き、受け皿を一元化する<br>※競技により、やむを得ない理由があれば、各団体が独立して実施する（会費等の調整も含めて）  | ・受入れ体制など、運営基盤が確立されているため<br>・費用負担など、統一、公平な運営が可能のため  |
| ②休日の活動認識  | 平日の学校部活動の延長ではない<br>1. 「専門的な指導を受ける機会」として、学校部活動と同じ競技に参加しても良い<br>2. 「様々な競技を楽しむ、挑戦する機会」として、学校部活動と異なる競技に参加しても良い<br>3. 休養するため、休日の活動に参加しなくても良い | ・学校教育の場から離れると共に、指導者も異なるため（平日は学校教員、休日は地域の方による指導）  |
| ③クラブ活動の単位 | 町内全体を活動単位とする<br>※朝日中、宮崎中、越前中、織田中による合同練習会のようなイメージ  | ・学校単位での活動になると、人数不足が懸念されるため   |
| ④クラブ活動の数  | 今現在、各中学校にある部活動種目を基準とし、新規種目（バドミントン・バスケットボール）の追加を検討   | ・大幅な活動数の増加は、各クラブの人数不足が懸念されるため<br>・アンケート（R5、R6）で、追加種目の要望が多かったため<br>・スポ少にもある競技が選択できると良いという意見もあったため   |
| ⑤受益者負担    | 費用は受益者負担とする<br>活動場所への行き来も保護者による送迎を原則とする   | ・学校から地域の活動に移行し、必要経費が生まれるため（想定経費：指導者謝礼、保険料、借上料等）<br>・原則、希望者による参加となるため<br>・国、県等の補助が活用できれば、負担軽減が見込まれる |
| ⑥活動場所の確保  | 中学校、各スポーツ施設を使用する  | ・町有施設を有効利用するため   |
| ⑦活動への参加制度 | 平日の部活動は全員参加を推奨する<br>休日のクラブ活動は自由参加とする  | ・学校部活動：学校教育の一環として、生徒の成長や人間関係の構築、自己肯定感の向上を促進するため<br>・クラブ活動：原則、希望者による参加となるため                         |